

厚生福祉


 時事通信社

104-8178 東京都中央区銀座5-15-8 時事通信社
 昭和28年5月30日 第3種郵便物認可
 毎週2回火・金曜日発行(但し祝日を除く)
 購読料金 税抜月額4,100円
 本誌掲載記事・写真などの無断複写、複製、転載を禁じます。
 ©時事通信社2015
 ◎誌面内容に関するお問い合わせ(編集部)
 kousei-dokusha@jiji.com

目次

調査・統計 2014年度障害者の職業紹介状況 精神障害者の就職17.5%増 全体では5年連続過去最高	2
調査・統計 第一生命経済研究所調査 育休や介護休暇、高い活用意思 取得者への不満も、コミュニケーションが重要	4
「育休で上の子退園は違法」 保護者が所沢市提訴	7
中央省庁ニュース	8
転居者の介護費、交付金で調整 高齢者の移住推進へほか	
進言(東京都)	9
苦悩するフードバンク 「人手不足」「輸送手段ない」	10
若い世代の負担軽減へ 所得税改革、政府税調で議論開始	11
学会・医療情報	12
地域を支える(鳥取県)	13
セルフ健康チェックの現場からvol.74	14
私たちの工夫	15
事件・事故・裁判	16
短信	17
ニュースフラッシュ	18
中山間地域に認知症カフェ/QRコードで身元確認/薬剤師確保で奨学金制度ほか	

ある朝の出来事

山裾に移り住んで、浴びるほどの緑の中の坂を下っていくと、職場に着くまでに学童が登校する横断歩道が二か所ある。

山の麓の小学校に通う子供たちの列が見えたので、車を止めて皆が渡り終えるのを待つ。どうも低学年の子から先に渡っていくようだ。最後の背の高い子が二人、車に向かって深々と頭を下げて礼をする。そのいじらしい姿に思わず胸がキュンとなる。

坂を下り切り、国道に出る手前のもう一つの横断歩道でも違う小学校へ通う児童たちが道を横切るところだった。この集団には大人が二人付いていた。大人も子供のリーダーも旗を持っていて、

社会福祉法人新生会
 名誉理事 長・石原美智子



渡り切ると旗を上げて車を通す。たまたまだろうが、この集団は旗の上げ下げのみで、頭の上げ下げはなかった。

ほんの数分の間の出来事である。

どちらの子供たちにとっても毎朝繰り返される行為だ。これらの子供たちが成長した時、この小学校六年間の習慣はどのような変化や想い出として残るのだろうか。こういう小さなことの積み重ねで人々が成長し、社会が出来上がっている。常に何かを得て何かを失いながら。

私たちの住む町では、町内のすべての小、中、高校で福祉一貫教育を始めている。当法人経営の専門学校や介護現場のスタッフが「自立と尊厳」

をベースにしなが、医療・福祉の仕事の遣り甲斐や面白さ、また、ケアの在るべき姿について講師役を担っている。

やってあげればいいと思っていだけれど、自分で出来ることは自分ですること、出来ないことも工夫をすることで出来るようになること、そして本当に出来ないことはしっかりと手伝うというケアの奥の深さが分かった、などと学生たちが声にする。

今後、少子高齢社会がますます進む中で、多くの大人とその割には少ない子供の織り成す人生模様が、どちらの年代にとってもより幸せ度の高いものであるために、どんな社会を創りだしていくのか。この町の未来の姿は日常の小さな行為や言動に含まれているということを、改めて思った朝であった。